

号数	総会年月日	日本海損精算人協会会長演説演題	会長	イギリス海損精算人協会会長演説演題	会長
1	1957/12/17	(会長演説は行われませんでした)		共同海損を分担すべき利益及びその価格 一特に運賃について	W T Wood
2	1958/10/31	B/LにNew York Adjustmentを規定している場合又は 備船契約書にSettlement in Londonを規定している 場合の処置について 共同海損事件に於ける利息の附加を最長四ヶ年とす べき提議に関する成行 Karachiに本拠を持つ救助業者に関連する注意事項	橋本昇	仲裁手続による商事紛争解決の欠点	Lord Justice Sellers
3	1959/10/16	共同海損関係財貨の保険について 共同海損負担価格と船主責任の関係 (演説者: 橋本昇)	市川牧之助	Unrepaired Damageその他について	M H Downes
4	1960/10/28	定期傭船と共同海損	中村新三郎	中間港に於ける船貨分離について	S G Chubb
5	1961/10/20	"Unrepaired Damage(未修繕損害)"について	三田次郎	現今の商取引の実状とInstitute Cargo Clauses	J H Lloyd Davies
6	1962/10/19	海損精算人協会に対する若干の考察	溝口周次	港務局などによる障害物の撤去について	A J Finlason
7	1963/10/25	挫礁船の再浮揚と船底損傷	中山秀治郎	新旧交換控除と古材料売得金の処理 貨物の共同海損分担義務	R H Arnold
8	1964/10/23	Specialistの役割	村瀬逸三		C T Greenacre
9	1965/10/22	海外保険事情に因む所感	橋本保	積荷の輸送費用	R C Clancey
10	1966/10/21	日本海損精算人協会の使命と抱負	橋本昇	再び船舶の未修繕損害について	N M Gordon
11	1967/10/27	海損事件雑感	橋本昇	船舶堪航性に関する船主の注意義務に付て	Lord Devlin
12	1968/10/25	共同海損における共同「危険」	宮津新平	英国精算人協会Rules of Practiceの改変	G R Heselton
13	1969/10/24	共同海損の簡略化	中村新三郎	共同海損の簡略化について	J S Crump
14	1970/10/23	AAA百年史	水沢謙三	単独海損クレームの簡略化	D L Towers
15	1971/10/22	避難港に於ける船舶の仮修理費について	河邊正夫	But Why All Claims ?	R A H Arnold
16	1972/10/24	1950年ヨーク・アントワープ規則改正の動向について	宮武和雄	海上の安全	Gordon Willmer
17	1973/10/26	共同海損関係利益と保険契約	三田次郎	ヨーク・アントワープ規則改定についての若干の提	N G Hudson
18	1974/10/28	1974年ヨーク・アントワープ規則の背景と展望	明壁末吉	精算の遅延、その原因と対策	G H May
19	1975/10/22	共同海損精算をめぐる環境変化	脇茂	拳証責任	D G Milburn
20	1976/10/27	共同海損制度について	小栗晴雄	The Reasonable Cost of Repairs	A B Dann
21	1977/10/26	航海過失と共同海損について	林田桂	イギリスの船舶保険ー或る面からの考察	C R D Towers
22	1978/10/27	ハンブルグ・ルールをめぐる諸問題	房野政春	不法行為法の変遷と将来の問題点	Lord Justice
23	1979/10/16	ある衝突・航海放棄事件処理の全貌について ー興国丸(1963年)の例ー	阿部健一	財務面から見た船舶保険	D.C.Cooper
24	1980/10/13	ロイズ標準救助契約書式の改正等と共同海損	柏木繁二	海難救助、共同海損および油濁	W P F Bennett
25	1981/10/22	Lloyd's S.G. Formとの決別 (Cargo Insurance)	宮武和雄	損害防止約款について	J P Duke
26	1982/10/20	東城丸事件をめぐる諸問題について	石川寛	推定全損を推進する	Lord Justice Donaldson
27	1983/10/27	裁判官の旗振り	宮武和雄	80年代の海損精算人の役割(私見)	W Richards
28	1984/10/25	単独海損と共同海損	宮武和雄	共同海損精算実務上の諸問題	R A Stacey
29	1985/10/24	江戸中期の共同海損の精算	三井寛胤	損害防止について適正な合意作りを(新ITC-Hulls の第13条の解釈をめぐる一考察)	G S Hughes
30	1986/10/23	油濁損害と共同海損	北原貞幸	船体、機関保険の控除(窮すればまた楽しみあり)	K V Wood
31	1987/10/22	共同海損費用の新保険について	小木曾本浩	責任制限	Justice Sheen
32	1988/10/25	Non Separation Agreementに就ての若干の考察	藤原昭男	共同海損あれこれ	D J Wilson
33	1989/10/26	船舶の仮修理費と共同海損について	近藤敬三	危険、拳証及び保険証券にかかる考察	A J Birch
34	1990/10/25	国際海事立法の最近の動向	小林友次	1990年代の共同海損	C S Hebditch
35	1991/10/24	本邦海損業務についての一考察	増見厚	固有の瑕疵の危険	R W Hipkin
36	1992/10/22	船舶保険自由化への対応に関する一私案	阿部孝一郎	船舶が修理される場合	J S Crump
37	1993/10/28	1974年ヨーク・アントワープ規則第VI条について ー救助料の共同海損からの除外ー	中西正和	船級についての若干の考察("A Touch of Class")	J C Allen
38	1994/10/27	定期傭船者の立場でのG/Aの諸問題	高柴英樹	イギリス海損精算人協会ーこの25年を振り返って	R R Smith
39	1995/10/26	1994年ヨーク・アントワープ規則第VI条について	中西正和	古代と現代の共同海損	J A MacDonald
40	1996/10/24	英国における海損精算人の役割として何をとりよふ、環 境 (演説者: 明根司)	中西正和	荒天、自然の消耗とITC HULLS 1995	C I Barstow
41	1997/10/23	なち丸沈没・保険金請求事件(演説者: 藤沢順)	中西正和	ハンブティ・ダンブティとリスクマネージメント	Lord Mustill
42	1998/10/22	海損精算人の役割(共同海損、単独海損)	重松徹	共同海損に関する特殊考察	D M Pannell
43	1999/10/28	共同海損における精算通貨	重松徹	共同海損の範囲は共同安全主義に制限されるべき であるかについての討論	D C Clancey
44	2000/10/26	ISMコードと共同海損	小川洋一	Role Playing「共同海損の認容範囲を制限すべきか どうか?」	J M Duncan
45	2001/10/25	日本海損精算人協会実務規定改訂私案	藤沢順	保険証券における免責控除	J M Duncan
46	2002/10/24	万国海法会の「運送法に関する2001年12月10日付 最終草案」に見える航海過失免責廃止の可能性と、 もし廃止された場合、それが共同海損に及ぼすことあ るべき影響について	藤井郁也	イギリス・アメリカ・ノルウェーの3つの船舶保険マ ーケットにおける約款・実務の相違点の検証作業	T J W Madge
47	2003/10/23	世にも不思議な海難事故には世にも不思議な原因 がある	藤井郁也	船舶保険もAll Risksの方向に動いていくのか?	T J W Madge
48	2004/10/28	危険物の安全輸送	中川靖之	海損精算人の役割と、その将来への展望	D W Taylor
49	2005/10/27	ある共同海損の事件	中川靖之	What constitutes Physical Loss or Damage ?	Michael D Harvey
50	2006/10/26	船社の営業現場から見た海損精算	澤田興宣	Shipbuilders Risks	Nigel J. C. Rogers
51	2007/10/25	サルベージ現場からの提言	大久保勉	人材育成	Nigel J. C. Rogers
52	2008/10/23	海難救助契約の当事者は誰か	大久保勉	Another Fine Mess(ドックの清掃費用)	Richard Cornah
53	2009/10/22	共同海損と海賊	関根司	Progressive Damage(継続進行損害)	Richard Cornah
54	2010/10/28	イギリスはわからない	関根司	CTLの残存価値の帰属	Justice Tomlinson
55	2011/10/27	不法行為による損害賠償の範囲	戸田満弘	1911and All That(海賊問題)	John R. Ahern
56	2012/10/25	貨物War Claimについて	山岡正順	Stuck in the doldrums ? (A consideration of whether the ABS Loss of Charter Hire Insurance wording is still fit for purpose.) (Loss of Earning 保険)	Paul Silver
57	2013/10/24	貨物クレームにおける日本損保の強みについて	山岡正順	Feeling frustrated and abandoned ? Consider York- Antwerp Rules 履行不能・放棄を通じてYork Antwerp Rulesを考え る	Keith Jones
58	2014/10/23	仕向地への曳航(1994YAR との20年)	重松徹	Sufficient proceeds of sale-or negative equity (十分な売得金か負の平等か、推定全損に関わる 保険上の諸問題)	Keith Jones

59	2015/10/22	共同海損分担請求権の時効	中村哲朗	Basic Instincts(基本的な直感・本能)	Paul Rowland
60	2016/10/27	Differential Salvage再論 – YAR2016 Rule VI(b)–	中村哲朗	Hull Clauses and Claim – Time For Some Marriage Counselling ? (船舶保険約款とクレーム–結婚カウンセリングの時期?)	Andrew Paton
61	2017/10/26	私がリアルタイムで経験したYARの変遷とその背景を振り返って	為田薫	Sue & Labour – A Traditional Doctrine Keeping Up With The Times (損害防止–時勢に遅れない伝統的な教義)	Keith Martin
62	2018/10/25	2016年ヨークアントワープ規則採択の経緯	久保治郎	Fishing–Shades of Grey(漁業–Greyな影)	Willum Richards
63	2019/10/24	推定全損に関わる最近のイギリス判決を読んで思うこと–Renos号事件判決を中心として–	久保治郎	The Longchamp' and Rule F of the York–Antwerp Rules (Longchamp事案とYork–Antwerp規則F条)	Willum Richards (Clarke卿)
コロナ禍の為、休会				Reflections on Covid–19 and the impact on Hull claims	Richards Cornah
コロナ禍の為、休会				Salvage in the Desert	Michiel Starmans
64	2022/10/27	海事諸制度の海的色彩の現状および今後のありかたについて	久保治郎	General Average Back To The Future	Michiel Starmans
65	2023/10/25	共同海損に関するイギリス判例解説 –The “POLAR” 2021年12月1日 Court of Appeal判決–	森荘太郎	「Seaworthiness, Negligent Navigation and Safer Ships」(堪航性、過失航海と、より安全な船舶) 2021年11月に英国最高裁で判決が下された CMA CGM LIBRA 号事件が題材	Nigel Teare
66	2024/10/24	「共同海損に関する最近の英国海事判例の解説」 1. Star Antares – YAR 1994 or 2016? 2. The Polar 最高裁判決 – 傭船者がC/Pの規定により戦争保険の割増保険料を支払い、C/Pの規定がB/Lにincorporateされている場合、B/L holderは船主のGA分担請求を拒否できるか？」	森荘太郎	When War Risk Becomes War Reality (船舶戦争保険)	Burkhard Fisher (Albatross)